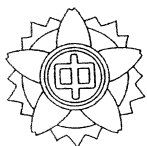


Open your eyes, look up to the skies and see. ～目を開けて空を見上げてごらん～



南戸塚中だより

令和3年度 第11号
令和4年3月16日発行
学校長 赤堀 貴
電話 871-7611



4月に立てた目標は… ～成長を確かめよう～

令和3年度も残り僅かとなりました。1年前、進級・進学して1年間の目標を立てましたが、その結果はいかがですか。目標通りに成長できたでしょうか。目標を決める、つまり考えることも大事ですが、実行することも、もっと大事です。考えるだけでは物事は変化しません。実行することで物事が動いていきます。この1年間を振り返って、どれだけ考えていたことを実行したかが成長の大きさにつながっていることでしょう。

今年度の『南戸塚中だより』も最終号になりました。1年間読んでいただき、ありがとうございました。

第36回 卒業証書授与式

3月9日(水)、卒業生と職員、各保護者1名と、在校生代表、PTA役員代表のみの参列、時間短縮などの感染対策を行った上での開催となりました。晴天で風もなく、気温も比較的暖かく、好天に恵まれました。1・2年生には、先輩の卒業式での立派な姿を見てもらえませんでしたので、当日読まれた3年生代表の言葉をお読みください。

タイトル上のメッセージ

Queen の歌を取り上げた今年度最後は “*Bohemian Rhapsody*” です。1975年発売、Queen 代表曲の1つです。6分に及ぶこの歌は1. アカペラ 2. バラード 3. オペラ 4. ハードロック 5. バラードと変化します。今から4年前の2018年に同名の伝記映画が公開され、大ヒットしました。この映画でQueenを知ったり、ファンになった人も数多くいたことでしょう。今年度最後は、この曲のこの歌詞で締めくくろうと考えていました。



令和三年度

門出の言葉

卒業生代表



今から三年前、澄んだ青い空、満開の桜、太陽のまぶしい光に照らされ、私たち186人は南戸塚中学校に入学しました。少し大きめの制服を着て、何もかもが新鮮に感じました。そんな中、期待や希望と同時に不安や緊張を抱きながら、中学校生活をスタートしました。短かった三年間の思い出がよみがえってきます。

一年生で行った横浜遠足。初めてクラスで協力し、コース作りを行いました。あれだけ考えたのに計画通りにいかず、班の仲間とあわてて走ったことや、行き慣れていない場所を周り、道にまよってしまったことを思い出します。自分で計画を立て、時間通りに行動することはとても難しいのだと知りました。遠足後の事後学習では班の人とかべ新聞を作りました。その際友だちの今まで知らなかった一面を知ることで自分と共通の趣味や特技を見つけだすことができ、友情の深まりを感じました。また、完成までの過程でつまずきがあったからこそ、完成したときの達成感も感じられました。一人ではなく、友達と何か一つのことをやりとげる楽しさを体験することができました。

一年生のときの文化発表会。スローガンは「自色爆発」。美術の作品の展示や、合唱コンクールなどの様々な発表を通して、一人ひとりの個性を發揮できた文化祭でした。その中でも生徒会本部の先輩と文化発表会実行委員の方々が行った劇では、会場全体がとても盛り上がり、私は無我夢中で見ていました。そして、たくさんの人が協力し合うことで大きな感動を作ることができるのだと気づきました。そんな先輩方の姿に感動し、私も先輩方のようになりたいと思い

ました。

二年生の初め、一番記憶に残っているのは緊急事態宣言による休校。初めての長期間の休校で自分の好きなことをしたり、のんびりしたりしたけれどなぜかすぐに飽きてしまいました。私は学校という場の大切さ、友達や先生と話したり遊んだりする楽しさに気づくことができました。そして緊急事態宣言も解除され、分散登校となりました。まだ、友達みんなと会えるわけではありませんでしたが、何気なく過ごしている毎日は私にとってかけがえのないものだ、改めて感じました。

自然教室。みなかみへ行くことができませんでした。代わりに行った遠足は私にとって忘れられない思い出です。大自然の中を一直線に切り裂くように進んだジップライン、緑に囲まれながら空中で鬼ごっこや、ドッチボールをしたバカブ、生焼けの野菜を食べたバーベキュー、そして学校での花火。夜の学校で行った花火は幻想的でした。「せーの」というかけ声で一斉に火を灯し、赤学年が一つになった瞬間でした。

三年生。先輩方から南戸塚中学校を任せられ最高学年となりました。そして全ての行事に「最後の」という言葉がぎざまれるようになりました。

最後の体育大会。クラスの全員で思いをつないだ全員リレー、仲間の応援が校庭中に響き渡り自分の学年、クラスだけでなく学校全体が盛り上がりました。本番ではバトンパスがうまくいかなかったり、転倒したりするなどのアクシデントがありました。それでも、諦めずに走り、仲間にバトンを渡そうとする姿、仲間を一生懸命応援する様子を私は忘れられません。

修学旅行は新型コロナウイルスの影響で延期が重なり、最後には中止になってしまいとても残念でした。また、文化発表会や合唱コンクールも行うことができませんでした。しかし、いろいろな行事がなかったからこそあたり前の毎日の大切さをより感じることができました。「おはよう」という友達とのあいさつ、10分休みや昼休みの時間に友達と笑いあったこと、廊下を走って先生に怒られたこと、授業中での先生の言ったつまらないギャグが逆におもしろかったことなど、たくさんの思い出がよみがえってきます。

また、私の生徒会活動を振り返ってみると、やってよかったと感じることばかりでした。まず、あいさつポスターや階段アート製作を通してあいさつをする人が増えたことを実感したことです。

また、中央委員会でテーマについて話し合う活動を通して、ナントツを過ごしやすい学校にしようとするきっかけを作ることができました。そして私が生徒会活動をしていて一番やりがいがあったことは全校集会でのレクです。様々な制限がある中で、みんなが楽しめるレクを考えることは苦労の連続でした。どのようなレクならクラスの中でできるのか、どのようなルールならわかりやすいか、そのためにどんな準備をしなくてはならないのか。その苦労があったからこそいざレクを行って学校全体が盛り上がる様子を見ると、生徒会活動をやっていて良かったなあと心から感じました。

在校生のみなさん、今度はあなたたちが南戸塚中学校を引っ張っていく番です。三年生になってからは、卒業までの日々があっという間に感じます。何気なく過ごしている毎日はとても大きいものだ気づくはずですよ。そのかけがえのない一日一日を大事に過ごしていきましょう。

三年生のみなさん、赤学年みんなとこうして集まるのも今日で最後ですね。あの楽しかった中学校での日々が今日で幕を閉じると思うときさみしくなってきます。私たちはどんなときも優しく仲間を受け入れ、明るく過ごしてきました。そんな赤学年だったからこそ今日まで全力でたのしむことができました。三年間本当にありがとう。

そして、毎日私たちを支え、何かあったときには一番近くで心配をしてくれた家族。いつでも私たちに寄り添い、悩んだり困ったりしたときに話を聞いてくださった先生方。私たちを見守ってくださった地域の方々、本当にありがとうございます。私たちは自分の将来に向かって確かな一歩を踏みだしました。これから私たちは、自分の足で立ち、歩いていきます。そんな私たちの姿を見ていきましょう。

もう中学校での三年間、義務教育での九年間の時間が過ぎ去ろうとしています。そして明日からは一人ひとりが新たな道へと歩んでいきます。

